

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 松ヶ江南 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるように なっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・ 改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

松ヶ江南 小学校 「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
平成 2 5 年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成 2 7 年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回り、昨年度よりもその得点差が開いた。言語についての知識・理解・技能にも課題がある。国語の基礎・基本の習得も必要である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む問題は、全国とほぼ変わりがなかった。	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く問題の正答率が低かった。文の中における主語を捉える問題の正答率が低かった。	
			下回っている

国語B	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回り、昨年度よりもその得点差が開いた。読むことも書くことも力を付けていく必要がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	目的に応じ、中心となる語や文を捉える問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する問題の無解答率が高かった。目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事に書く問題の正答率が低かった。	
			下回っている

算数A	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回り、昨年度よりもその得点差が開いた。無解答率が全国平均を上回る問題は減少した。基礎・基本の習熟に課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	分数のわり算の計算問題は正答率が高かった。示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選択する問題の正答率は全国よりも高かった。	
	努力が必要な問題	小数の加法の結果を減法を用いて確かめる問題の正答率が全国よりも特に低かった。日常生活の中で必要となる時刻を求める問題の正答率が全国よりも特に低かった。	
			下回っている

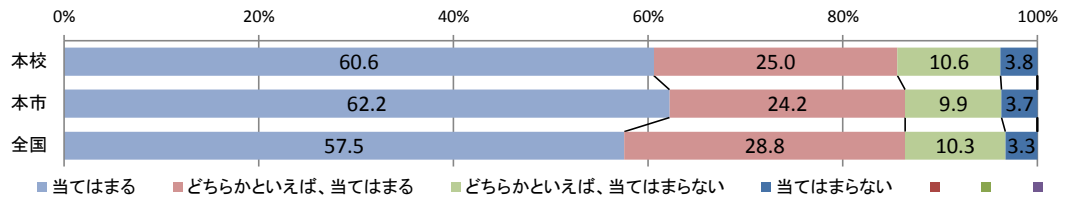
算数B	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回り、昨年度よりもその得点差が開いた。無解答率が全国平均を上回る問題は減少した。粘り強く取り組むようになった。応用する力も付けていく必要がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	正三角形の性質を基に辺の長さや角の大きさを求める問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを記述する問題の正答率が全国よりも特に低かった。条件を変更した場面の面積を求める正答率が全国よりも特に低かった。	
			下回っている

理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回り、昨年度よりもその得点差が開いた。知識に関する問題の正答率、活用に関する問題の正答率両方とも低かった。基礎・基本から身に付ける必要がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	メダカのみすとおすを見分けるために観察する部分を選ぶ問題の正答率が全国平均よりも高かった。方位を判断するために、観察した事実と関連付けて考える問題の正答率が全国平均よりも高かった。	
	努力が必要な問題	析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述で答える問題の正答率が低かった。	
			下回っている

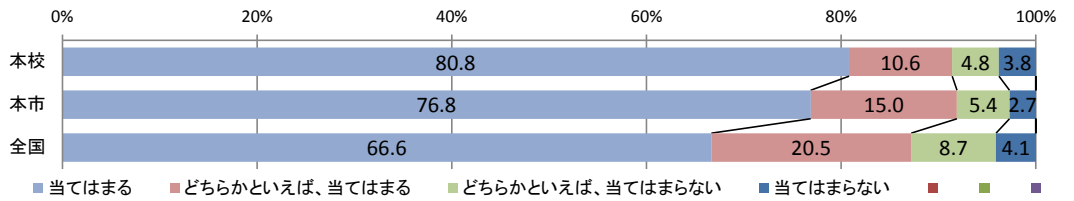
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

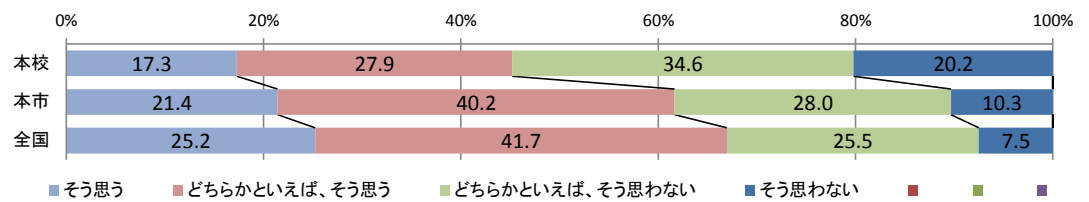
41
授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。



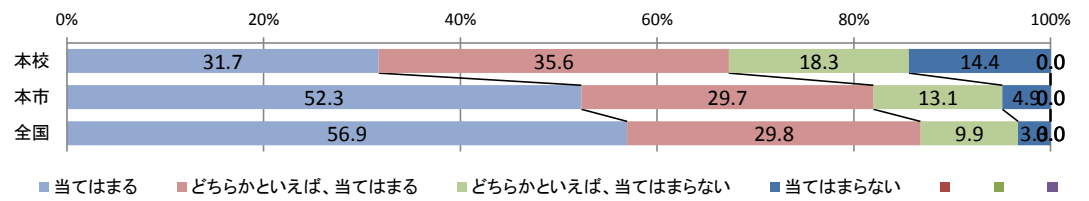
43
授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか。



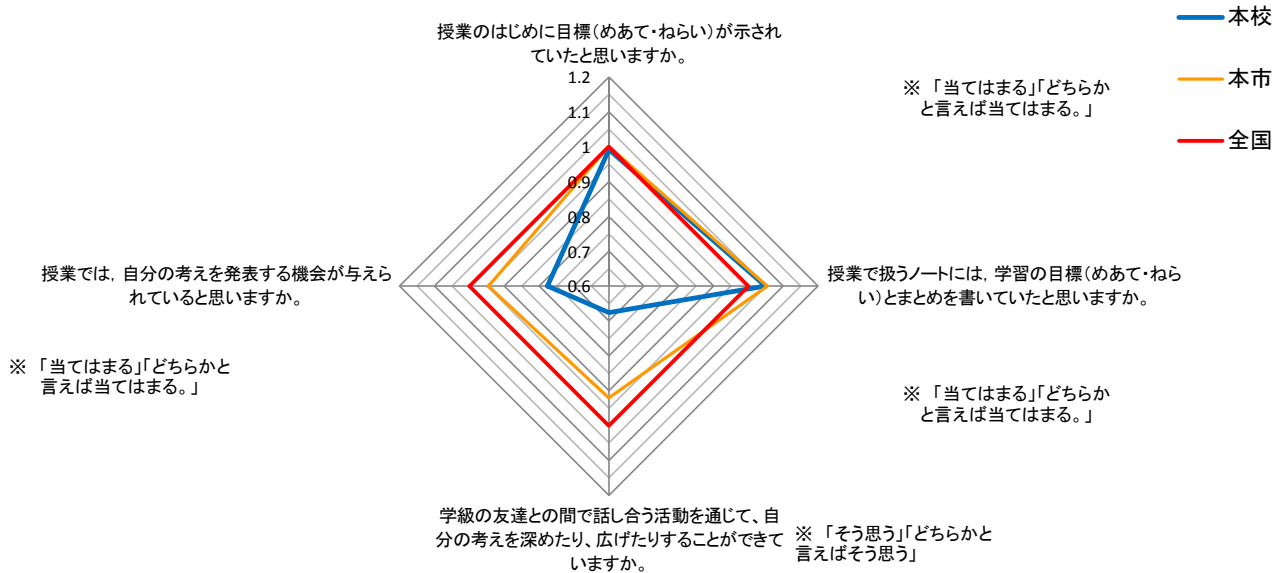
46
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



38
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

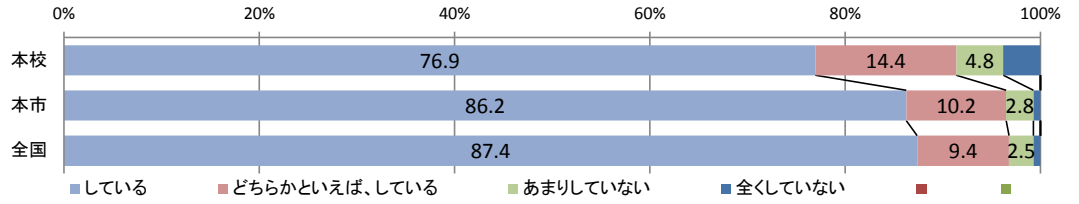
・授業がめあてとまとめをはっきりさせて行われている。授業が焦点化されているのが、大きな成果である。
 ・児童は、発表する機会が与えられていないと感じている。児童が、「発表した」と感じる機会を増やしていく必要がある。
 ・基礎・基本を身に付けることと、それを活用する活動を行うことをバランスよく仕組んでいく必要がある。
 ・個と集団に対するバランスのとれた指導が必要である。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

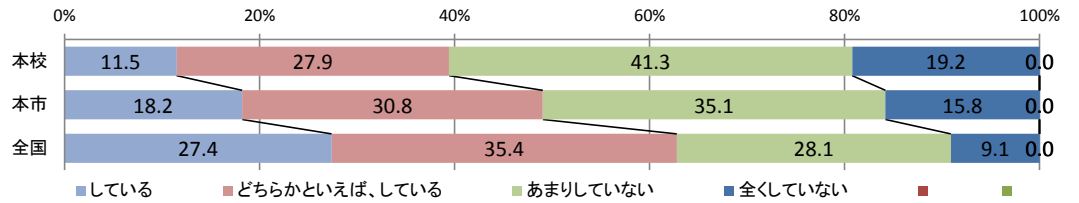
① 家庭学習習慣に関する調査結果

質問番号
質問事項

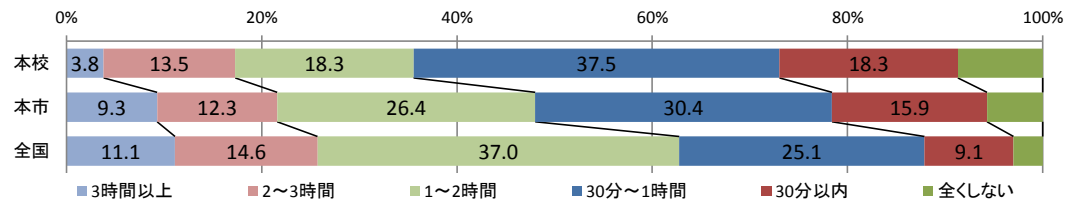
21
家で、学校の宿題をしていますか。



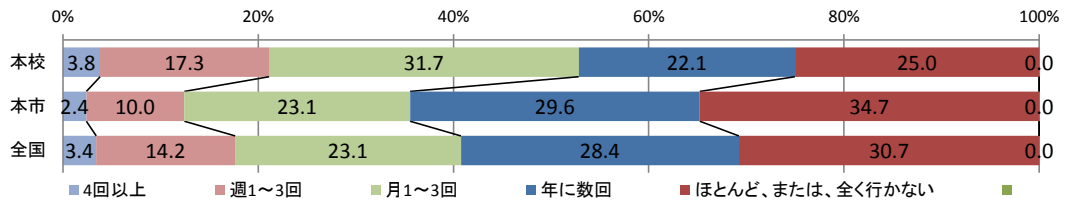
20
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



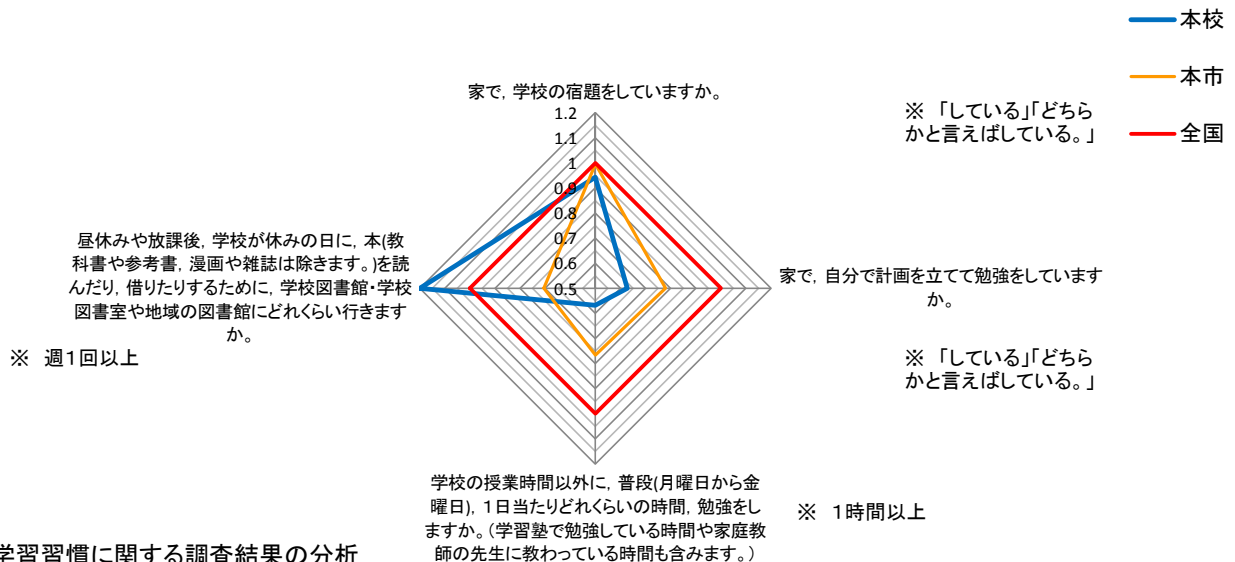
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



17
休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



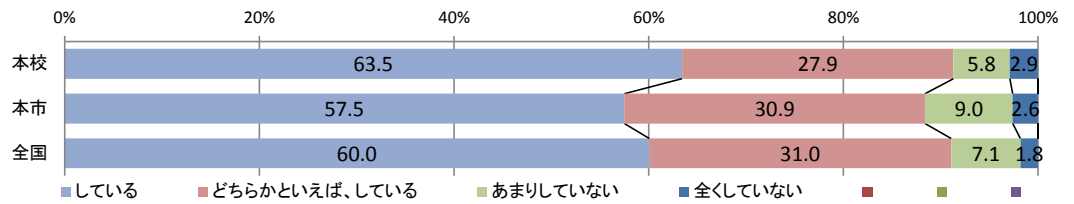
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・読書をする習慣が身に付いている。読み聞かせの取り組みの成果である。
 ・家庭学習をする習慣が身に付いていない。全校で時間のめやすを示したり、家庭学習の具体的な取り組み方を指導する必要がある。

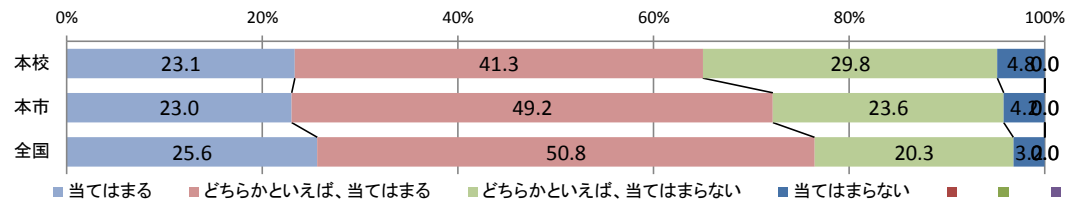
④ 生活習慣等に関する調査結果

質問番号
質問事項

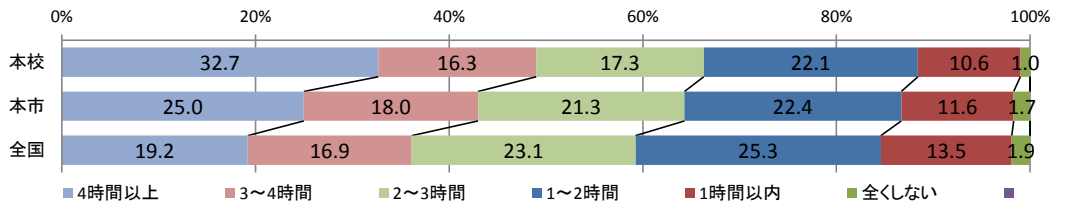
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



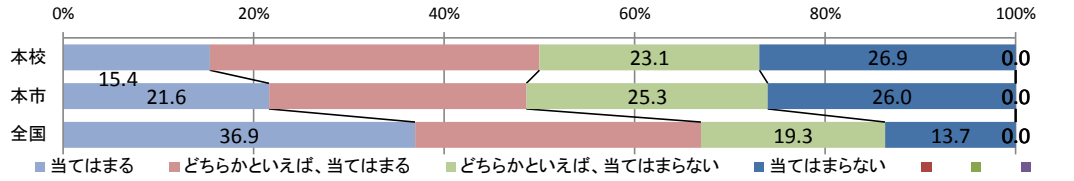
5
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。



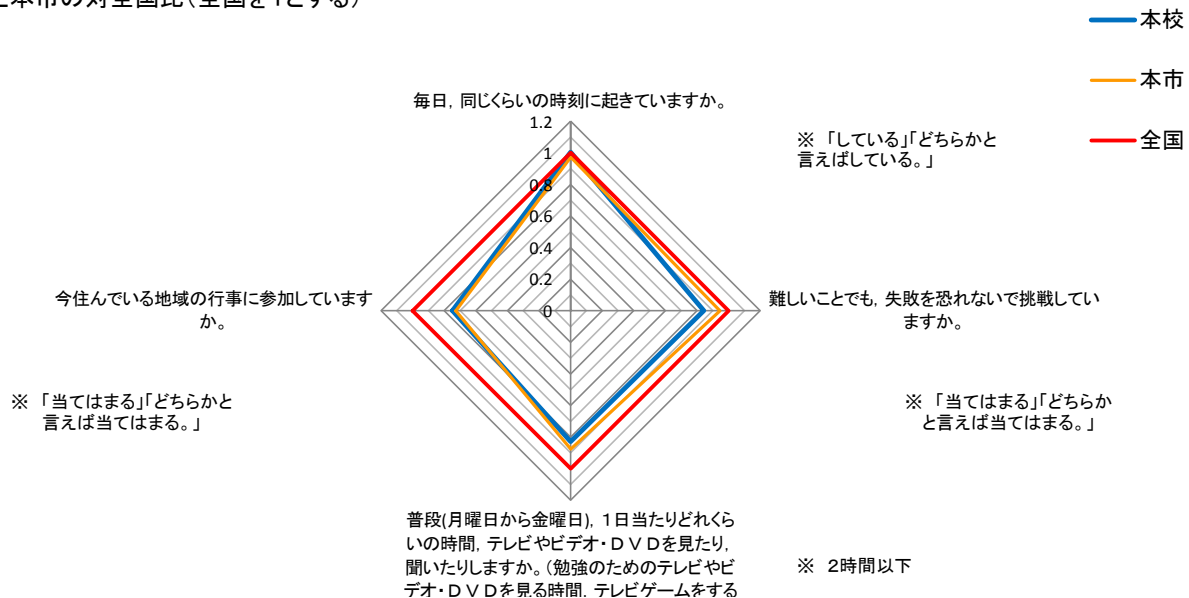
10
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除きます。)



27
今住んでいる地域の行事に参加していますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・学校便りや理事会で生活習慣について触れることにより、家庭の理解を得、規則正しく朝起きることができている。
 ・ゲームをする時間は短い、テレビ等の接触時間が多い。特に3時間以上の長時間の利用の割合が多い。今後、毎月行っているノーテレビ・ノーゲーム・読書の日の取組に対する保護者啓発をさらにしていく必要がある。
 ・挑戦することに課題がある。学校行事や日常の学習、自主学習などでワンランク上にチャレンジすることを意図的に仕組み、さらにそこでの成功体験を積み重ねていく必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

◎ 学力向上のための特設時間の実施

- ・朝自習<松南タイム>で全校一斉に実施(今年度は特に音読に力を入れる)
月曜日:学級 火曜日:音読 水曜日:ボランティアによる読み聞かせ(読書) 木曜日:計算 金曜日:漢字や言葉
- ・特設時間(給食準備中の算数マスタータイム)の取組
内容計画表を作成し、一年間学年を分担し継続して実施(学力向上推進委員会・各学年)
- ・長期休業中における宿題で、国語・算数の過去問題、アシストシート、単元別プリント等の準備
- ・小中連携サポーター・・・計画的な配置、活動補助、プリント整備
- ・ひまわり学習塾の実施

◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用

- ・単元末に過去問題や活用ワークの問題を位置付け「力だめし」をする。
- ・アシストシートを宿題とし、朝自習で答え合わせ、解説、やり直しを行う。
- ・アシストシートと過去問を冊子にして、冬休み・春休みの「宿題帳」とする。

○ 「言葉の学習」の取組

- ・ノート指導を通して、書くことへの抵抗感をなくす。
- ・ノートを書く際、自分の考えをひとまとまりの文章(主張+理由)で書く機会を増やす。
- ・自分の考えを広げ、深めるため、授業の中での話し合い活動の充実を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)

- ・長期休業中や自主学習での「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
- ・中・高学年での自主学習ノートへの挑戦
- ・家庭学習時間(10分×学年)の設定と学校便りや理事会での広報
- ・校内自学ノートコンテストを実施。市の家庭学習マイスター賞への応募
- ・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシートを活用

◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知

- ・学校便り・学校HP